



市長 からの 手紙

62 あけぼの児童園・ひかり児童園

市では、障害児等が通う施設である「あけぼの・ひかり児童園」の建て替え事業を進めています。

現在の児童園は、市役所から歩いて5分ほどの宮下町にあります。建物が狭く、老朽化も進んでいます。加えて、肢体不自由児の指導室が2階にあり、地震や火災など万一のときの避難が迅速にできない恐れがある、等々の理由で、しばらく前から建て替えるための検討を進めてきました。

私も、保護者の皆さまとの懇談会や施設視察のため現在の建物に何度か入りましたが、狭くて使い勝手の悪い状態であることを実感しました。また、保護者の皆さまをはじめ、各方面からご要望を多くいただいたこともあり、子どもたちのために建て替えを決断しました。

3年ほど前から、用地選定の作業と並行して

保護者の皆さまのご意見ご要望をいただきながら、新しい建物にどのような機能を備えるのか検討を進めてきました。その結果、寿町の給食センター跡地に新築することが決まり、今年度は建物の実施設計を行っています。

新しい施設は、現あけぼの児童園・ひかり児童園を統合して一つの「児童発達支援センター」とする予定です（正式名称のほか、これまでの名称を愛称として使い続けるかはこれから検討します）。通園の定員を現在の60名から80名に増員し、「相談支援」「地域支援」の機能も導入することになっています。床面積はこれまでの2倍以上で、内部は通園部門と外来・相談支援部門に分かれます。通園部門では、児童が過ごす時間が多い指導室すべてを1階の南面に配置し、遊戯室、室内温水プールの設置も予定しています。外来部門では、プライバシーに留意した待合室、相談室、療法室、言語聴覚室等を備えることになっています。

今後、給食センターの建物取り壊し工事を行った後に建物建築工事に入り、平成31年度の供用開始を目指し事業を進めていきます。

子どもたちのために、新しい建物はできる限り明るくきれいな雰囲気にし、必要とされる支援につながればと考えています。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して20
続けています、市役所の省エネ活動

環境政策課 0224-5866

今月4日、「パリ協定」が発効されました。この「パリ協定」は深刻化する地球温暖化問題を世界が一丸となって解決するための国際的な約束事で、平成17年に発効された京都議定書に代わるものです。日本は特に、事務所や家庭などにおける排出量の削減に力を入れていくとしています。

市では、国の削減目標達成に貢献するため、住宅用太陽光発電システム等への補助金交付や、省エネ活動の普及啓発等を行っています。また、事業者として、不要な照明の消灯、空調の適切な温度設定、階段利用など、市役所内の省エネルギーに努めています。このような小さな取り組みの積み重ねにより、市の公共施設における平成27年度の温室効果ガス排出量を、同22年度と比べて3%削減することができました。数字だけ見ると小さく感じられるかもしれませんが、ぴこあやウエスタ川越など、大規模な施設が新設された中で削減ですので、省エネ等の取り組みの効果は出ていると言えます。

家庭での省エネも、毎日コトコツ継続することが大切です。冬は夏以上にエネルギーを使用すると言われていますので、今年の冬も引き続き、ご家庭での省エネにご協力をお願いします。

